



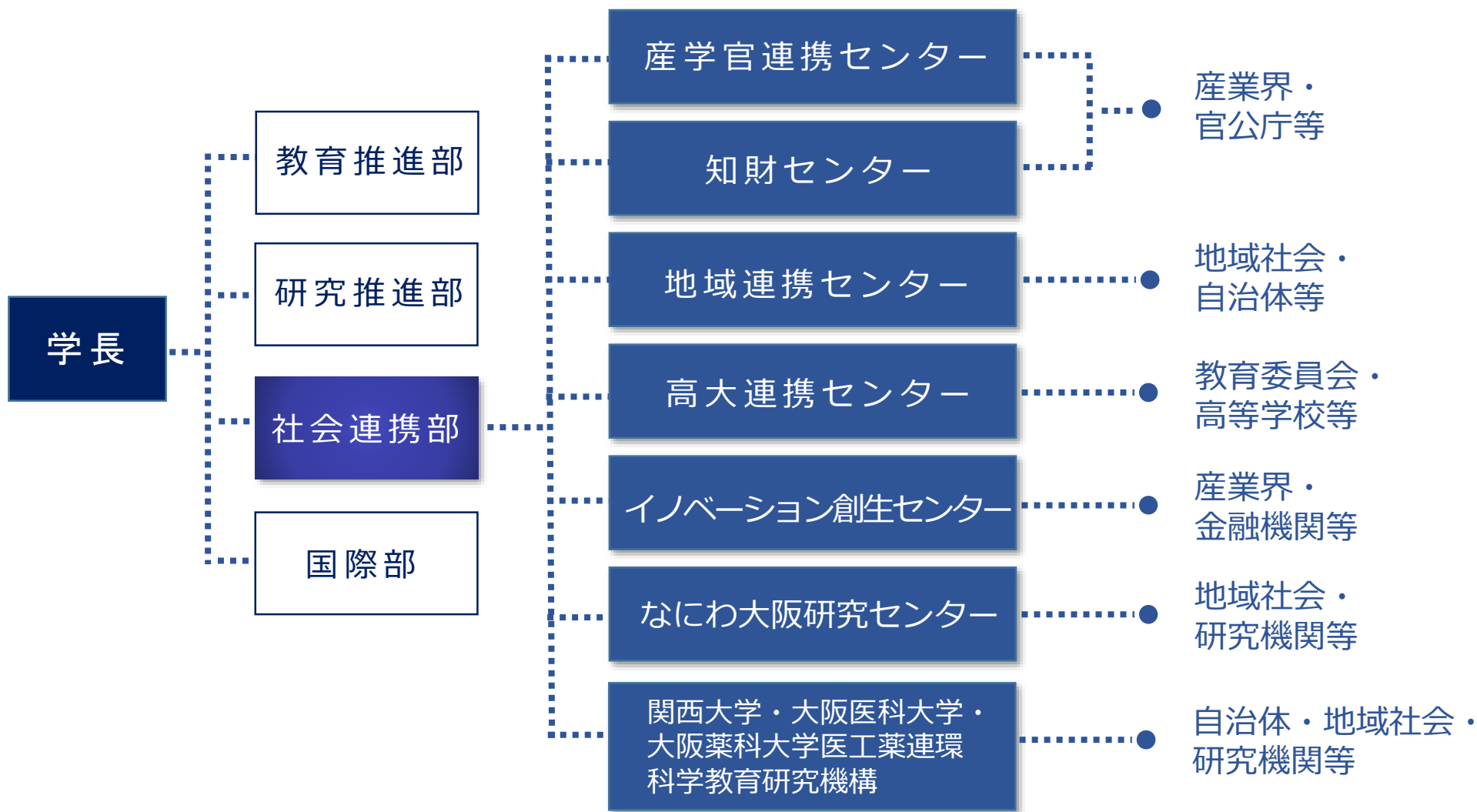
KANSAI
UNIVERSITY

関西大学

地域連携活動の取り組み



社会連携体制図



関西大学 地域連携協定一覧

34件

自治体 22件
団体・研究機関等 12件

大学は、地域社会との連携を強化し、多岐に渡る地域の課題に対して大学の教育・研究力を活かし、解決に寄与することで相互の発展を目指す「課題解決型地域連携活動」を推進します。

2019年6月現在



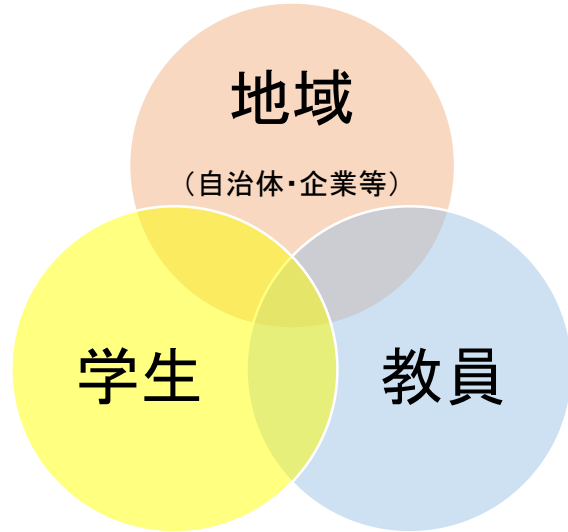
<p>大阪府高槻市 (2004年7月14日締結)</p> <p>高槻キャンパス(総合情報学部)・高槻ユースキャンパス(社会安全学部)が中心となって、情報学・社会安全学の研究成果を活かした包括的な連携を展開しています。</p>	<p>大阪府吹田市 (2004年11月1日締結)</p> <p>本学の本部である千里山キャンパスがあり、連携協議会を基盤にキャンパス周辺のまちづくりや教育への提供など様々な分野で連携しています。</p>	<p>りそな銀行 (2004年11月8日締結)</p> <p>銀行及び取引企業におけるビジネス・インターシンプ学生との交流、企業からの寄附贈付の開催、産学連携の推進法科大学院におけるリーガルクリニックの実施などを目指して連携しています。</p>	<p>大阪府八尾市 (2005年12月22日締結)</p> <p>産学連携事業の包括契約から「八尾リサーチ研究会」の設立、「八尾のまちづくりイベントセミナー」の定期的開催等を通じて地域密着型の産学連携を推進しています。</p>		
<p>奈良県明日香村 (2006年2月7日締結)</p> <p>1972年の高松塚古墳の発掘調査を契機に、考古学を軸とした連携活動を推進しています。現在はボランティア学生との交流など多様な関わりが生まれています。</p>	<p>兵庫県丹波市 (2007年7月9日締結)</p> <p>空き家をリノベーションした「関西大学造スタジアム」を拠点に、「関わり続ける」という定住のカタチをテーマにカフェやワークショップ、地元行事への参加など、地域住民と学生が自発的に地域再生活動に取り組んでいます。</p>	<p>佐賀県筑前市 (2007年11月26日締結)</p> <p>周年、さまざまな体育会クラブが積極的に参加し、地域の小中学生や地域住民を対象としたスポーツイベント、地元行事への参加など、幅広い分野で連携を行っています。</p>	<p>天神橋筋商店連合会 (2007年11月29日締結)</p> <p>両者の関係は1928年の大六学舎開設から続いており、近年は商店街内での調査活動など、地域活性化や文化の発信を目指した連携を進めています。</p>	<p>兵庫県加西市 (2008年4月16日締結)</p> <p>本学の公費助成による研究プロジェクトに当時の市長が副代表として招請に参加されたことと契機に連携協定を締結しました。</p>	
<p>大阪シティ信用金庫 (2004年8月1日締結)</p> <p>大阪の特色ある地域づくりや、人材育成、文化振興等を目的に、相互の人的、知的資源の交流を促しています。</p>	<p>大阪府堺市 (2006年6月7日締結)</p> <p>キャンパスが中心となって、スポーツ・福祉・ユース等の分野をはじめとする幅広く地域福祉の教育および研究成果を活かした包括的な連携を展開しています。</p>	<p>大阪府池田市 (2006年9月10日締結)</p> <p>地域分科の推進に関する委員会を中心に、向かい側が市長(当時)の客員教授招へいなどを機に連携。現在は空店舗を活用した商店街の活性化に取り組んでいます。</p>	<p>京都府福知山市 (2006年10月7日締結)</p> <p>40年以上にわたって地下水保全・地下水位・地盤沈下等に関する調査等と連携しています。地下水等に関する研究を推進し、市民の健康と安全を確保することを目的に連携を進めています。</p>	<p>伏見酒造組合 (2006年12月2日締結)</p> <p>酒造りに欠かせない地下水保全や飲水の適正管理に関する研究成果をベースに連携協定を締結。伏見の酒造りである丹波酒と共同で「自然の美観」を企業しました。</p>	<p>池田泉州銀行 (2008年8月21日締結)</p> <p>地域経済の活性化、大学の企業・産業に対する事業サポート、人材育成をもちろですが、相互の人的・物的資源の交流・活性化を図り、地域社会の発展に資することを目的に連携しています。</p>
<p>大阪市北区役所 (2011年2月24日締結)</p> <p>北区内の天神橋筋商店街に研究と社会連携の拠点である関西大学リサーチアクト「産学交流・市民支援」が開設されたことをきっかけに連携を開始しました。</p>	<p>奈良県葛城市 (2011年7月10日締結)</p> <p>福原心療の分野で、長年にわたる引きこもりの子ども・若者の育成支援に携わっています。市に「子ども若者支援地域協議会」が設置されたことをきっかけに連携協定を締結しました。</p>	<p>岩手県大船町 (2011年7月10日締結)</p> <p>人材育成と雇用創出による産学連携が、2011年度に作成したCOI連携協定の成果が、関係者となり協定締結。志願者として受けた歴史を踏まえたまちづくりを推進することを目的としています。</p>	<p>道頓堀商店会 (2012年1月14日締結)</p> <p>関西大学大阪都市産業研究センターが2011年度に作成したCOI連携協定の成果が、関係者となり協定締結。志願者として受けた歴史を踏まえたまちづくりを推進することを目的としています。</p>	<p>京都府八尾市・UR都市機構 (2014年8月15日締結)</p> <p>「住みたい、住みつづけたい、果山」を掲げ、果山地域の活性化を目的に、子育て支援や高齢者ケアなど、地域再生に取り組んでいます。</p>	<p>兵庫県美作市 (2014年8月4日締結)</p> <p>地域産業の振興や、食品・加工食品産業の振興を目的とした高橋孝徳天理学院の開設、兵庫県立鳥取大学との連携による人材育成に取り組んでいます。</p>
<p>国立循環器病研究センター (2014年12月24日締結)</p> <p>吹田産業団地への移転が決定した際センターおよび、地元自治体である吹田市、摂津市と協力して、「健康」「健康」を軸としたまちづくりを進めています。</p>	<p>大阪府摂津市 (2015年4月2日締結)</p> <p>吹田産業団地のまちづくりを契機に、活力ある地域づくりや健康・医療のまちづくりについて共同研究などの協力を進め、その成果を地域に活かします。</p>	<p>大阪府都市整備部 (2015年3月26日締結)</p> <p>大阪府下の道路や河川など、都市整備事業推進の調査や維持管理、その利活用などに関しては連携や情報共有を行い、相互の人的資源や技術力の向上につなげます。</p>	<p>林原美術館 (2015年8月26日締結)</p> <p>同美術館所蔵品の新たな研究や魅力発見を目指して連携。美術館の発展や青少年の芸術活動の活性化を目的として、相互の人的資源や技術力の向上につなげます。</p>	<p>和歌山県・田辺市 (2016年1月13日締結)</p> <p>野外活動実習や特産品を用いた食農展開などを実施。食料の安全・安心を目的として、相互の人的資源や技術力の向上につなげます。</p>	<p>高知県安芸市 (2016年5月24日締結)</p> <p>体育会野球部による両市でのキャンプや法科大学院による裁判官研修など、長年にわたる連携協定から協定締結した。今後の両市分野等での連携も目指しています。</p>
<p>兵庫県播磨名川町 (2017年2月6日締結)</p> <p>まちの歴史を継承した持続可能なまちづくりを目指し、「まちの賑わい」を軸としたまちづくりや教育環境向上に向けた知見の提供などに取り組んでいます。</p>	<p>阪急電鉄 (2017年4月20日締結)</p> <p>沿線地域の活性化を目的に、阪急電鉄などが運営する「urban festival」に参加するなど、地域住民および関係企業の協力のもと、まちづくりに取り組んでいます。</p>	<p>大阪府 (2018年1月10日締結)</p> <p>子どもたちと学生の交流やボランティア活動による市民参加の推進、「課題」などを連携した連携事業の推進、イベントの開催など、地元・大阪を盛り上げる都市にするための取組みを推進します。</p>	<p>大阪府河内長野市・UR都市機構 (2018年2月10日締結)</p> <p>南河内地域の活性化を目的に、多世代が安心して快適に生活できるまちづくりの推進を目的に、相互の人的資源や技術力の向上につなげます。</p>	<p>福井県・大野市 (2018年6月13日締結)</p> <p>大野地域の地域資源である水辺を研究や、市内に集まる「関西大学研究スタジアム」の学生と地域住民との交流等、様々な面で協力ある地域づくりを推進します。</p>	<p>大阪府河内長野市・コメヤ (2018年12月21日締結)</p> <p>南河内地区におけるスマートエッジングシティの形成を目指すため、コメヤ・南河内2店舗のコメヤを拠点に産学連携および市民参加のまちづくり活動の創出を図ります。</p>

New!

大学との連携内容

学内での審査により、周知・協力可否を判断のうえ行います。

教員・学生と連携する



教員と連携する

学生と連携する

ゼミ単位での連携

<メリット・懸念>

学生の発想と教員の知見を同時に得られる。
ゼミ等に取り入れるため、アカデミックな内容での連携活動となる。
交通費・活動費の負担等について要相談

<方法>

ゼミ活動での連携など

教員単独との連携

<メリット・懸念>

研究の知見を得られる。学生は基本的には関与しない。
謝金・研究費は必要になる場合が多い。

<方法>

委員会就任
受託研究 など

学生単独との連携(学生団体との連携)

<メリット・懸念>

意欲的・専門的な学生が学部を横断して集まる。
指導者は不在。受入れ母体や体制、保険加入状況等の確認が必要

<方法>

インフォメーションシステムによる周知
学部チラシ配架による周知 など



地域の課題をとともに考え、その解決に寄与する



—多世代が交流でき、楽しく歳を重ね成長できるまちを目指して—
南花台スマートエイジング・シティ 団地再生モデル事業



3つのワーキンググループ（街の魅力向上、小さなつながりたくさん、環境ストック）ごとに活動し、進捗状況や情報共有・議論する場として多世代の交流を図りながら活動の広がりを見せている。



—持続的に「関わり続ける」という定住のカタチによる21世紀のふるさとづくり—
農山村集落との交流型定住による故郷づくり



「関わり続ける」という定住のカタチと「21世紀の故郷づくり」をテーマに、空き家リノベーションや滞在型講座等を通じて地域に滞在し交流を深めながら農山村集落の地域再生に取り組んでいる。



—UR男山団地 中央センター商店街の空き店舗を活用したコミュニティ拠点—

365日住民が気軽に集まれる場所



地域住民が気軽に集まれるコミュニティ拠点「365日、いつでも誰かがいる場所」として、子どもから高齢者まで多世代が集う場を開設